

一月より勘へたる開目鈔と申す文二卷造りて願きるならば日蓮が不思議とゞめんと思ひて勘へたり此の文の心は日蓮によりて日本國の有無はあるべし云々寔に金錚を以て無明の膜を決し遮那佛性の指を見るにあらずんば何れの日か當開目鈔の進退を正解することを得ん、然るに予や僭越にも當一篇の語勢と上引篇中の依文とを根據として今の論旨にあらざれば權實本迹事理等の法門を姑らく辨別せずして直に已解に任せて人正なるの御書と拜讀私見を下せし逆路罪は永く深く碩德に謝す、

論旨未だ一貫せず 筆文滯滯見ん人意を加へて予を助け給はんを、大權の天台尙云く非能申文外之妙筆受章安云く況復記能盡言云云 但し是れは謙讓耳。

## 台當二家依經科釋の同異 に就て像末兩導師の立脚 地を論ず

郭 風 生

台當兩家に於ける依經科釋の同異に就て像末兩導師の立脚地を辯明せんに初に科釋の同異を論究し次に兩導師の立脚地を辯明すべし。

夫れ妙法蓮華經一部九卷廿九品は其の中の文義本迹を出でず。故に一部の經二經にして不二二にして二經を成す。而も二經を分つ所以のものは迹本の二門、各々宗とする所各別なるが爲め也。即ち迹門は因門を明すを正意とし本門は果門を明すを正意とす。然も前述せるが如く本迹は離すべからず、故に科釋自ら一經三段二經六段と分つべし。蓋し一經三段に非れば法華一經を顯し難く。二經六段に非れば法華の宗致竟に窺ひ難し、

然るに天台大師は一經三段を正意とし、二經六段を傍意とす。即ち『記』に二經三段を指して「今記從前」と云ひ、二經六段を指して「若作兩正說」と云ひ「今且」と云ふ、傍正明々たり。蓋し斯の如き所以のものは大師は藥王菩薩の後身として、震旦に興出す慧休囑せらるゝ所は『累品』に於ける總付の一部にして迹面本裏の一經なり。世尊の遺旨に基き像法の時に於て、此の一部を弘宣する之れ大師の本

意なり。一經三段を正意とし給ふ事、寧ろ多辯を要せざるなり。若し二經六段の科釋を用ふるに於ては所付の經体永く二經を成す。何となれば大師所付の經は『累品』付囑の一部なり。故に大師は諸法實相の躰を以て廿八品に貫通せしむ。若し二經右々に序正流通を分つに於ては、其法体遂に一なるを得ず、故に二經を成すと云ふ而も其正説を釋するに二經六段を用ふる所以のものは文の親近を逐ふのみ。何となれば『文便品』より『人記品』に至る八品は專ら在世の得益を明し『法師品』より『安樂行品』に至る五品は滅後の流通を説き『涌出品』忽ちに顯本の由籍を明す、文の説相段々として一經三段に便ならず。故に親しき二經六段を以て釋し給ふ、而も是の如きは其正意に非るや知るべき也。

我祖は之れに反して二經六段を正意とし一經三段を傍意となし給ふ。然る所以のものは我が高祖大菩薩は本化上行の再誕として『神力』別付の要法を一切衆生に施さんが爲に、末法に垂應し給ひ、像末二時に弘通する所の法を簡判し末法應時の大法を樹立し給ふこと之れ其の御本意なり。故に本迹二門の起盡

を明かにし給ひ『本尊抄』に於ては四種の三段を立て『神力』別付の大法を顯し給ふ。若し一經三段を正意とせんか、如何が本迹の起盡を分つべき。如何が像法過時の迹を破し、末法應時の本門を顯すべき。遂に世尊の付囑を果すに由し無き也。是れ二經六段を正意となし給ふ所以也。若し人ありて二經六段を正意とせば、尙ほ本迹勝劣の偏見に墮せんと云はんか、之れ取るに足らざる種難のみ。何となれば吾祖の所付は『神力』別付の要法、一部の經は此の大法を顯説せるものなり。別付の要法は躰なり、一部の經は用なり、体の要法を取て何ぞ用の一部を二別すべき。比他伏疑あるべしと雖も今は煩しき故に之れを略す。

所詮大師一經三段を正意とし給ふ事は外用適時の故のみ内二經六段を正意となし給ふと雖も時未だ到らざるが故に付囑を受けざるが故に。迹化の衆なるが故に此三教の故を以て、末法の時を戀はせ給ふと雖も世尊の遺旨堅きを如何せん。吾が祖は元より本化の導師二經の起盡を明かにして以て像末所弘の法を簡判するを正意となし給ふにと、亦辯を要せざる

なり。

之れを要するに兩科の科釋本經の上に於ては一は正一は傍と分つべからずと雖も、像法の時、迹化の導師は總正別傍、末法の時、本化の導師は別正總傍而も此の兩種の傍俱に佛の本意なり。蓋し迹化本化同じく佛囑に依ればなり。驗め知ぬ、兩科の釋に於て傍正各々異なるものは導師二本化迹化の別あり、時に像末の別あり、付囑に總別の異なるに依る事とを、以上台當二家に於ける依經科釋の傍正に付て、像末兩導師の立脚地を辯明せり。

## 無宗教者を如何にして

導くべきか

黑 數 學 勇

或無宗教の老人あり予は此れに對して問はんあなたはなせ宗教を信じないのですかと老人答へらく私は別に學問と云ふてはありません然し人間の道を正直に守り行つて居りますから特に宗教とか佛の教とか

を信する必要はないと思ひますと斯る人に向つて斯く云はんと欲すあなたの仰せは一應御尤もですなれども顧つて考へて見ますと失禮な云ひぶんではありますがおあなたは未だ宗教と云ふ事を御存じないのです何となれば現に今あなたの云はれたやうに五倫五常の道を踐んで即ち人間の道を守つて行くところ既に宗教の一分に御入りなされて居るのではないかと存じます何んなれば其五倫五常の道も矢張宗教を離れては居らぬですつまり我々から云ふと宗教の一部分から割出されて居ると云ふても差問題ないので然し斯様な事は世間一般云ふ所の道ですから宗教から離れて居ると思はれるも御無理はありませんですから宗教に依らずともよいと思はれるも當然の事です其れでは猶ほ重ねて御尋ね致しますがあなたは最愛の子とか又は妻とかが一朝病氣に罹るとか或は今度の如き戦争に際して愛子が出征して今や青島の浦に於て獨逸兵と命のとりやりをして居るとか自分又は自分に親しい者が不時の災に遭遇して九死一生の場合に臨んでどんな心が起きますか病氣に罹れば死ぬるはきまつて居る戦争に行つて鐵飽丸に中はば